領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	2	専任教員

科　目　目　標
成人期にある対象の特徴と多様性を学び、成人期各期における保健問題の動向と保健対策の概要を知り、健康の保持・増進・疾病の予防など看護の役割が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：成人の特徴と生活① 成人期の発達の特徴 身体的・心理的・社会的な特徴、発達課題の特徴 2回目：成人の特徴と生活② 成人の生活 家族形態の変化、家族機能、ライフスタイルの特徴 3回目：成人の特徴と生活③ 成人を取り巻く環境 社会状況の変化、産業構造・労働環境の変化 4回目：成人の健康観の多様性と看護 健康観、健康観に影響を及ぼす要因 5回目：学習の特徴と看護 おとなの学びの特徴、アンドラゴジーモデル 6回目：成人における健康の保持・増進・疾病の予防① 生活習慣に関連する健康課題 生活習慣病の要因、健康問題の現状と推移、 健康行動・保健行動 7回目：成人における健康の保持・増進・疾病の予防② 職業に関連する健康課題 就労条件・環境と疾病との関係、 職業性疾患、作業関連疾患 8回目：成人における健康の保持・増進・疾病の予防③ ストレスに関連する健康課題 ストレスと健康、ストレスと対処法 9・10回目：成人における健康の保持・増進・疾病の予防④⑤ 成人の対象者に応じた健康教育計画の立案 11～14回目：成人への看護に有用な概念 病の軌跡、セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーション 15回目：試験・まとめ	＊自ら成人期にあることを自覚するとともに、大人の学びとして主体的に学習する姿勢を養い学びを深めるねらいで、グループワークでの学習、発表を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 成人看護学①「成人看護学概論」メディカ出版	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義 グループワーク	筆記試験 70% グループワーク・レポート 30%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人臨床看護Ⅰ	1	30	2	1	院内講師 専任教員

科　目　目　標
1. 循環機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。 2. 生体防御機能に障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
第1回：循環機能障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 胸痛、動悸、呼吸困難、チアノーゼ 第2回：循環機能障害のある患者の看護② ・検査・処置を受ける患者の看護 心臓カテーテル法、血行動態モニタリング 心血管超音波検査 第3回：循環機能障害のある患者の看護③ ・検査・処置を受ける患者の看護 心電図検査 第4回：循環機能障害のある患者の看護④ ・治療を受ける患者の看護 薬物療法、心臓カテーテル治療 冠状動脈バイパス術〈CABG〉 弁置換術・弁形成術、補助循環装置 血栓溶解療法・血栓除去術 ペースメーカー治療、植込み型除細動器治療 第5回：循環機能障害のある患者の看護⑤ ・疾患を持つ患者の看護 虚血性心疾患、心不全、血圧異常 第6回：循環機能障害のある患者の看護⑥ ・疾患を持つ患者の看護 不整脈、弁膜症 動脈系疾患（大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症） 静脈系疾患（深部静脈血栓症、肺塞栓症） 第7回：循環機能障害のある患者の看護⑦ ・心臓リハビリテーションと看護 第8回：血液・造血器疾患を有する患者の看護① ・症状に対する看護 貧血、出血傾向、白血球減少症 第9回：血液・造血器疾患を有する患者の看護② ・検査を受ける患者の看護 末梢血検査、骨髄穿刺、骨髄生検 ・血液疾患患者の看護 がん化学療法と看護、放射線療法と看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 第10回：血液・造血器疾患を有する患者の看護③ ・造血器腫瘍患者の看護 輸血療法 ・白血病患者の看護 ・悪性リンパ腫患者の看護 第11回：膠原病に罹患している患者の看護① ・症状に対する看護 発熱、関節症状、皮膚・粘膜症状 筋肉症状、口渇・眼の乾き、レイノー現象 ・検査を受ける患者の看護 第12回：膠原病に罹患している患者の看護② ・治療を受ける患者の看護 ・疾患を持つ患者の看護 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス 多発性筋炎・皮膚筋炎 第13回：アレルギーを有する患者の看護 ・症状に対する看護 呼吸器症状、消化器症状 皮膚症状、眼症状 ・検査・処置を受ける患者の看護 プリックテスト、パッチテスト 粘膜・皮膚生検 ・治療を受ける患者の看護 減感作療法 ・疾患を持つ患者の看護 アナフィラキシー患者の看護 薬物アレルギー患者の看護 第14回：感染症に罹患している患者の看護 ・症状に対する看護 発熱、発疹、下痢、意識障害 ・検査・治療における看護 ・疾患を持つ患者の看護 感染症への処置 第15回：まとめ・試験	循環機能障害のある患者の看護では、急性心筋梗塞患者の看護について事例を用いて説明

テ　キ　ス　ト	弾性
系統看護学講座　専門分野 成人看護学3「循環器」 成人看護学4「血液・造血器」 成人看護学11「アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演示	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人臨床看護Ⅱ	1	30	2	2	院内講師 専任教員

科　目　目　標
1. 周手術期にある対象とその看護の目的・方法を理解できる。 2. 救急時の看護の実際を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
第1回：周手術期にある患者の看護① ・術前の看護 手術療法の理解を促す援助 手術の意思決定への援助 術後合併症のリスクアセスメントと援助 術前オリエンテーション 不安のアセスメントと援助 ボディイメージ〈身体像〉の変容への援助 第2回：周手術期にある患者の看護② ・術中の看護 手術体位による影響と援助 麻酔による影響と援助 安全管理〈セーフティマネジメント〉 （患者確認、ガーゼ遺存の防止） 第3回：周手術期にある患者の看護③ ・術後の看護 生体反応、術後の疼痛管理 創傷管理、ドレーン管理 ・術後の機能障害や生活制限への看護 ボディイメージの受容への支援 退院支援、機能訓練、セルフケア能力の獲得 第4回：周手術期にある患者の看護④ ・術後合併症と予防 術後出血、下肢静脈血栓、肺塞栓症 呼吸器合併症、感染症、廃用症候群 弾性ストッキングの着脱 第5回：呼吸器の手術を受ける患者の看護 ・胸腔鏡下手術を受ける患者の看護 ・肺切除術を受ける患者の看護 第6回：循環器の手術を受ける患者の看護 ・開心術を受ける患者の看護 第7回：消化器の手術を受ける患者の看護① ・内視鏡下手術を受ける患者の看護 ・腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 ・食道再建術を受ける患者の看護 第8回：消化器の手術を受ける患者の看護② ・胃切除術を受ける患者の看護 第9回：消化器の手術を受ける患者の看護③ ・膵臓切除術を受ける患者の看護 ・大腸切除術を受ける患者の看護 ・肝切除術を受ける患者の看護 ・胆管ドレナージ管理と援助 第10回：内部環境調整関連、頸部疾患の手術を受ける患者の看護 ・腎移植術を受ける患者の看護 ・甲状腺切除術を受ける患者の看護 ・咽頭・喉頭摘出術を受ける患者の看護 第11回：集中治療を受ける患者の看護① ・生命が危機的状況ある患者の特徴 ・集中治療における看護の役割と実際 ・集中治療中の患者の看護 呼吸器系の看護：人工呼吸器装着患者 第12回：集中治療を受ける患者の看護② ・集中治療中の患者の看護 循環器系の看護、精神的ケア 家族へのケア ・回復に向けての看護 ・ＩＣＵの管理・運営：ＩＣＵの目的・適応 第13回：救急時の看護① ・緊急性と重症度のアセスメント 意識レベル、神経学的所見 バイタルサイン 第14回：救急時の看護② ・救急看護の基本 ショックへの処置、急性症状の応急処置 外傷・熱傷・中毒の応急処置 ・環境要因による障害の緊急処置 熱中症・低体温 ・危機的状態への精神的支援 第15回：まとめ、試験	手術を受ける患者の看護では、胃切除または腸切除を受ける患者の看護について事例展開を行う。 演習： 弾性ストッキングの着脱 心電図モニターの取り扱い ドレーン類の挿入部の処理

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」 「臨床外科看護各論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人臨床看護Ⅲ	1	30	2	1	院内講師

科　目　目　標

1. 呼吸機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。
2. 消化機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。
3. 代謝・内分泌機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。
4. 生殖機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
第1回：呼吸機能障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 咳嗽・喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難 第2回：呼吸機能障害のある患者の看護② ・検査を受ける患者の看護 気管支鏡検査、呼吸機能検査 胸腔穿刺、肺生検 ・治療を受ける患者の看護 薬物療法、吸入療法、酸素療法 人工呼吸療法、胸腔ドレナージ 第3回：呼吸機能障害のある患者の看護③ ・疾患を持つ患者の看護 炎症性疾患（肺炎、気管支炎、胸膜炎） 慢性閉塞性肺疾患 第4回：呼吸機能障害のある患者の看護④ ・疾患を持つ患者の看護 腫瘍（肺癌、中皮腫）、気管支喘息 第5回：消化機能障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 吐き気、嘔吐、吐血、下血、下痢、 便秘、腹痛、腹部膨満、黄疸 第6回：消化機能障害のある患者の看護② ・検査を受ける患者の看護 造影検査、内視鏡検査、肝生検、 腹部超音波検査 ・治療を受ける患者の看護 肝庇護療法、インターフェロン療法 食道静脈瘤内視鏡治療、肝動脈塞栓術 第7回：消化機能障害のある患者の看護③ ・疾患を持つ患者の看護 上部消化管腫瘍（食道癌、胃癌） 下部消化管腫瘍（大腸癌、結腸癌） 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病） 潰瘍性疾患（胃・十二指腸潰瘍） 肝臓・胆嚢疾患（肝炎、肝硬変、肝癌、 胆石症）、膵炎 第8回：代謝機能、内分泌機能に障害のある患者の看護① ・検査を受ける患者の看護 糖負荷試験<OGTT>、血糖自己測定<SMBG> 第9回：代謝機能、内分泌機能に障害のある患者の看護② ・疾患を持つ患者の看護 1型糖尿病、２型糖尿病、脂質異常症、肥満、 尿酸代謝異常 ・検査を受ける患者の看護 ホルモン血中･尿中濃度測定検査 ホルモン負荷試験 第10回：代謝機能、内分泌機能に障害のある患者の看護③ ・治療を受ける患者の看護 甲状腺ホルモン療法、甲状腺切除術 ・疾患を持つ患者の看護 甲状腺疾患 （甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症） 腫瘍（甲状腺癌、下垂体腫瘍） 第11回：性・生殖機能障害のある患者の看護① ・診療介助における看護 外診時の看護、内診時の看護 ・症状に対する看護 性・生殖機能障害、ホルモン欠落症状 第12回：性・生殖機能障害のある患者の看護② ・検査を受ける患者の看護 ヒトパピローマウイルス<HPV>検査 腹部超音波、経腟超音波検査 乳房超音波検査、マンモグラフィー 第13回：性・生殖機能障害のある患者の看護③ ・治療を受ける患者の看護 乳癌手術、女性生殖器切除術、ホルモン療法 第14回：性・生殖機能障害のある患者の看護④ ・疾患を持つ患者の看護 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、 卵巣嚢腫） 腫瘍（乳癌、子宮体癌、卵巣癌） 生殖機能障害（月経異常、更年期障害） 第15回：まとめ・試験	演示： 胸腔ドレナージ 演習： 血糖測定 代謝機能障害のある患者の看護では、糖尿病患者の看護について事例展開を行う。

	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学2「呼吸器」 成人看護学5「消化器」 成人看護学6「内分泌・代謝」 成人看護学9「女性生殖器」	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演示、演習	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人臨床看護Ⅳ	1	30	2	1	院内講師

科　目　目　標

1. 運動機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。
2. 脳・神経機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。
3. 感覚機能障害をもった対象とその看護の目的・方法を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
第1回：運動機能障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害 第2回：運動機能障害のある患者の看護② ・検査を受ける患者の看護 脊髄造影、椎間板造影、膝関節鏡、筋生検 第3回：運動機能障害のある患者の看護③ ・治療を受ける患者の看護 ギプス固定、牽引法 第4回：運動機能障害のある患者の看護④ ・治療を受ける患者の看護 人工関節置換術、四肢切断手術 ・疾患を持つ患者の看護 大腿骨頸部骨折 第5回：運動機能障害のある患者の看護⑤ ・疾患を持つ患者の看護 腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症 脊髄損傷患者　関節リウマチ 第6回：運動機能障害のある患者の看護⑥ ・リハビリテーション時の看護 廃用症候群の予防 日常生活動作<ADL>・活動範囲の拡大に向けた援助、補助具・自助具の活用 心理的葛藤への対応 第7回：脳・神経機能障害のある患者の看護① ・症状・障害を持つ患者の看護 運動・感覚機能障害、言語機能障害 第8回：脳・神経機能障害のある患者の看護② ・症状・障害を持つ患者の看護 高次脳機能障害、咀嚼・嚥下機能障害 第9回：脳・神経機能障害のある患者の看護③ ・検査を受ける患者の看護 髄液検査、脳血管造影、脳波検査 第10回：脳・神経機能障害のある患者の看護④ ・治療・処置を受ける患者の看護 開頭手術、穿頭術、血管バイパス術 血管内治療、脳室ドレナージ術 脳室-腹腔<V-P>シャント術、低体温療法 第11回：脳・神経機能障害のある患者の看護⑤ ・疾患を持つ患者の看護 脳血管障害（大脳・小脳） 脳腫瘍（大脳・小脳） 第12回：脳・神経機能障害のある患者の看護⑥ ・疾患を持つ患者の看護 感染症（脳炎、髄膜炎）、頭部外傷 脊髄損傷 第13回：脳・神経機能障害のある患者の看護⑦ ・疾患を持つ患者の看護 重症筋無力症、ギラン－バレー症候群 筋委縮性側索硬化症<ALS>、多発性硬化症 第14回：感覚機能障害のある患者の看護 ・症状に対する看護 視覚障害、聴覚障害、嗅覚障害 味覚障害、触覚障害 ・検査を受ける患者の看護 眼底検査、聴力検査、味覚検査 鼻腔内視鏡検査 ・治療を受ける患者の看護 眼底光凝固療法、網膜はく離治療 眼内レンズ挿入術、鼓室形成術 小線源療法 ・疾患を持つ患者の看護 中途視覚障害、突発性難聴、メニエール病 副鼻腔炎、末梢神経障害 第15回：まとめ・試験	脳・神経機能障害のある患者の看護では、脳梗塞患者の看護について事例を用いて説明

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 成人看護学10「運動器」 成人看護学 7「脳・神経」 成人看護学13「眼」 成人看護学14「耳鼻咽喉」医学書院	
主とする授業形態	評　価　方　法

講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人看護学	成人臨床看護Ⅴ	1	30	2	2	院内講師

科　目　目　標

1. 排泄機能障害をもった対象とその看護の目的・方法が理解できる。
2. 終末期にある対象とその看護の目的・方法が理解できる。
3. がん患者への看護の実際について理解できる。
4. 褥瘡のある患者の看護の実際について理解できる。

講　義　内　容	留意点等
第1回：腎機能障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 浮腫、高血圧 ・検査を受ける患者の看護 静脈性尿路造影、腎盂造影、腎生検 第2回：腎機能障害のある患者の看護② ・治療を受ける患者の看護 透析療法、腎移植 ・疾患を持つ患者の看護 ネフローゼ症候群、慢性腎臓病 急性腎不全、慢性腎不全 第3回：泌尿器系に障害のある患者の看護① ・症状に対する看護 蓄尿・排尿障害、尿失禁、尿の性状異常 ・検査を受ける患者の看護 尿流動態検査、残尿測定、膀胱鏡 第4回：泌尿器系に障害のある患者の看護② ・治療を受ける患者の看護 膀胱切除術、前立腺切除術、ホルモン療法 ・疾患を持つ患者の看護 腎・尿路結石、前立腺肥大 腫瘍（腎癌、膀胱癌） 第5回：排泄機能障害のある患者の看護① ・排尿機能障害のある患者の看護 皮膚瘻造設術（腎瘻・尿管瘻・膀胱瘻）を受けた患者の看護 第6回：排泄機能障害のある患者の看護② ・排便機能障害のある患者への看護 消化管ストーマ造設術を受けた患者の看護 第7回：褥瘡のある患者の看護 第8回：がん患者と家族への看護① ・がん患者の抱える苦痛 転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 再発や経過の不確かさに伴う心理的苦痛 社会的偏見や制約に伴う苦痛 スピリチュアルな苦痛 第9回：がん患者と家族への看護② ・がん患者の治療と看護 集学的治療 ・がん患者の社会参加への支援 就労条件・環境の調整 社会参加を促す要素と阻害要因 第10回：がん患者と家族への看護③ ・がん患者の看護（事例） 第11回：終末期の看護① ・緩和ケアを必要とする患者の看護 がん患者、心不全患者、慢性呼吸不全患者 慢性疼痛のある患者 第12回：終末期の看護② ・エンド・オブ・ライフ・ケア 死の受容過程、 症状アセスメントとマネジメント 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 第13回：終末期の看護③ ・エンド・オブ・ライフ・ケア 苦痛緩和と意思決定支援 予期的悲嘆へのアセスメントとケア アドバンスケアプランニング、家族ケア ・臨死期の看護 身体的ケア、精神的ケア 家族の悲嘆のケア、代理意志決定支援 脳死状態への対応 第14回：終末期の看護④ ・死の看取りの看護 死の三徴候、死亡確認後のケア エンゼルケア 第15回：まとめ・試験	演示： エンゼルケア がん患者と家族への看護では、がん患者の看護について事例展開を行う。 演習： ストーマ管理 ＊死の看取りの看護では基礎看護技術Ⅱのテキストを使用する

	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4「臨床看護総論」 成人看護学5「消化器」 成人看護学8「腎・泌尿器」 成人看護学12「皮膚」　　医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演示	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
老年看護学	老年看護学概論	1	15	1	2	専任教員

科　目　目　標

老年期にある対象の特徴を学び、健康問題の動向と保健対策の概要を知り、健康の保持増進・疾病予防など看護の役割が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：高齢者とは ・ライフサイクル　・加齢と老化 ・健康指標　・生活視点 2回目：高齢者の特徴と理解 ・発達課題　・喪失体験 ・高齢者の多様性 ・生活史を通した理解 ・生活習慣、生活様式の多様性 高齢者にとっての健康と自立 ・老年期の健康とは ・サクセスフルエイジング 高齢者とＱＯＬ ・ノーマライゼーション ・スピリチュアリティ 3回目：加齢に伴う変化 1．身体機能の生理的変化 2．心理・精神機能の変化 ・知能 ・記憶力、判断力、計算力、遂行力 3．社会的機能の変化 ・役割と社会活動の変化 ・自宅における住環境 ・経済状況　・就労 高齢者をとりまく社会① 1．高齢者と家族 ・家族構成とニーズの変化 ・高齢者のいる家族の発達課題 ・家族の機能の変化 4回目：高齢者をとりまく社会② 2．高齢者が生活する場 ・ライフサイクルに応じた生活の場 ・病気の治療と介護に伴う生活の場 ・リロケーション 3．高齢者を支える制度 ・高齢者に関する保健医療福祉の変遷 ・地域包括ケアシステム ・医療保険制度　・介護保険制度 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 4．高齢者を支える社会資源 長期療養施設・在宅の看護 1．介護保険施設 2．地域密着型サービス 3．デイサービス・デイケア 4．在宅 5回目：高齢者看護の基本① 1．高齢者看護における倫理 ・高齢者差別 （スティグマ、エイジズム） ・高齢者の自己決定（アドバンス・ケア・プランニング：ACP） ・高齢者虐待と身体拘束 ・高齢者の権利擁護 （アドボカシー） 6回目：高齢者看護の基本② 1．高齢者に対するアセスメント 2．高齢者のバイタルサインの特性 3．高齢者によくみられる疾患 4．高齢者看護におけるチームアプローチ 5．高齢者のリスクマネジメント 7回目：高齢者看護の基本③ 1．高齢者看護の特性 ・エンド・オブ・ライフ・ケア 2．高齢者看護にかかわる諸理論 ・概念（エンパワメント、ストレングスモデル、ライフレビュー、コンフォート理論）の活用 高齢者へのヘルスプロモーション 1．高齢者の健康づくり ・介護予防　・フレイルの予防 8回目：試験（45分）	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 メディカ出版	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
老年看護学	老年病態学	1	15	1	2	院外講師

科　目　目　標
老年期の特徴的な疾患の病因・病態・症状とその検査・治療を学び、看護実践での健康・疾病に関する観察力、判断力の根拠が理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：高齢者の生理的特徴 ・老化と寿命 2回目：老年症候群 ・おもに急性疾患に付随する症候 （意識障害、せん妄、熱中症、脱水症、発熱） ・おもに慢性疾患に付随する症候 （腰背痛、やせ（るいそう）、手足のしびれ、浮腫、睡眠障害、抑うつ） ・おもにＡＤＬ低下に合併する症候（廃用症候群） （転倒・骨折、排尿障害（尿失禁、前立腺肥大症）、便秘、嚥下障害、フレイル） 3回目：高齢者の疾患の特徴① ・認知症 認知症の診断に必要な検査 認知症をきたす疾患の診断と治療 1.アルツハイマー病　2.血管性認知症　3.レビー小体型認知症 4.前頭側頭型認知症 ・精神・神経疾患 脳血管障害、パーキンソン病、気分障害（うつ状態、うつ病） 4回目：高齢者の疾患の特徴② ・呼吸器系の疾患 高齢者肺炎、高齢者肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症、肺がん、睡眠時無呼吸症候群 5回目：高齢者の疾患の特徴③ ・運動器の疾患 骨粗鬆症、骨折、変形性関節症 ・皮膚の疾患 老人性皮膚掻痒症 ・感染症 6回目：高齢者の疾患の特徴④ ・感覚器の疾患 緑内障、糖尿病網膜症、白内障 7回目：高齢者と薬 ・ポリファーマシー ・高齢者の安全な薬物治療 ・高齢者で留意すべきおもな薬物 8回目：試験（45分）	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
老年看護学	老年生活援助	1	30	2	1	専任教員

科　目　目　標

老年期にある人の加齢による機能低下に伴う日常生活上の健康問題を総合的に学び、
その援助について理解できる。

講　義　内　容

1回目：高齢者疑似体験（演習）
2回目：高齢者の生活機能と包括的な機能の
　　アセスメント
　　1.国際生活機能分類(ICF)
　　2.高齢者総合的機能評価（CGA）
　　3.日常生活動作（ADL）
　　4.手段的日常生活活動度（IADL）
　　5.障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準
　　6.認知症高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準
　　7.精神心理機能評価
3回目：コミュニケーション
　　1.高齢者のコミュニケーションの特徴
　　2.コミュニケーションを困難にする要因（視覚障害、聴覚障害）
　　3.身体機能・認知機能・個性に応じたコミュニケーションの方法
4回目：歩行・移動・姿勢保持
　　1.高齢者の歩行、移動動作、姿勢保持の特徴
　　2.活動の縮小の影響
　　廃用症候群、フレイル、閉じこもり
　　3.身体機能・認知機能に応じた安全な活動の維持・拡大の支援
　　4.身体機能・認知機能に応じた環境の整備
5回目：歩行・移動への援助（演習）
　　自動・他動運動の援助（演習）
6回目：活動と休息①
　　1.高齢者の睡眠と生活リズムの特徴
　　2.身体機能・認知機能に応じた活動と休息の支援
　　3.社会参加
7回目：活動と休息②
　　睡眠障害への援助
8回目：食生活①
　　1.高齢者の食事の特徴
　　摂食・嚥下障害、低栄養
　　2.身体機能・認知機能に応じた食事と食生活の支援
　　3.脱水症への援助
9回目：食生活②
　　1.摂食・嚥下障害（誤嚥性肺炎）への援助
　　2.低栄養への援助
　　3.食事指導
10回目：口腔ケア、義歯の取り扱い（演習）
11回目：清潔・衣生活
　　1.高齢者の清潔と衣生活の特徴
　　2.身体機能・認知機能に応じた清潔と衣生活の支援
　　3.皮膚障害（掻痒症）への援助
12回目：清潔・衣生活への援助（演習）
　　1.入浴・シャワー浴の介助
13回目：排泄
　　1.排泄のアセスメント
　　2.排泄能力の変化に応じた援助
　　3.尿失禁、便秘・下痢への援助
14回目：性〈セクシュアリティ〉
　　1.高齢者の性機能の特徴
　　2.高齢者にとっての性〈セクシュアリティ〉の理解と対応
　　高齢者がその人らしい生活を送るには(グループワーク)
15回目：まとめ・試験

留意点等

演習：
　高齢者疑似体験
　義歯の取り扱い
　食事指導
　歩行・移動への援助
　自動・他動運動の援助
　入浴・シャワー浴の介助

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」 メディカ出版	「生活機能から見た老年看護過程＋病態生活機能関連図」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験 90% レポート 10%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
老年看護学	老年臨床看護	1	30	2	1	院内講師

科　目　目　標
老年期の主な疾病や障害の特徴を理解し、状態に応じた看護を展開できる技術を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護① 認知症への看護 ・認知症の種類、症状　・日常生活への影響　・認知症の予防 ・認知症看護の基本的視点　・認知症高齢者と家族の支援 2回目：高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護② ・うつ病のアセスメント　・うつ病hへの看護 3回目：高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護③ ・せん妄のアセスメント　・せん妄の予防と看護 4回目：高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護④ ・パーキンソン症候群のアセスメント　・パーキンソン症候群への看護 5回目：高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護⑤ ・感染症のアセスメント　・感染症の予防と看護 6回目：治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護① 高齢者を介護する家族の生活と健康 ・看護の対象としての家族　・介護者の健康と社会生活　・介護状況と介護力の評価 7回目：治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護② 高齢者を介護する家族への看護 ・高齢者と家族の意思決定の支援　・高齢者や家族の特徴に応じた支援 8回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護① 薬物療法を受ける高齢者への看護 ・薬物動態の特徴　・服薬行動の特徴　・身体機能、認知機能に応じた服薬管理支援 9回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護② 慢性期の高齢者への看護 ・慢性期の高齢者の特徴　・疾患や障害とともに生きる高齢者の看護 10回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護③ 終末期にある高齢者と家族への看護 ・高齢者の死にかかわる権利と医療（アドバンス・ケア・プランニング） ・エンド・オブ・ライフケア　・身体的アセスメントと看護（苦痛の緩和と安楽への援助） ・精神的苦痛や不安・混乱に対する看護　・家族の参加と家族への支援（グリーフケア） 11回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護④ 急性期の高齢者への看護 ・急性期の高齢者の特徴　・手術療法を受ける高齢者の看護 ・手術療法以外の急性期の高齢者の看護 12回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護⑤ 回復期の高齢者への看護 ・高齢者の疾患からの回復過程の特徴　・急性期からの回復過程にある高齢者の看護 13回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護⑥ リハビリテーションを受ける高齢者の援助 ・リハビリテーションを受ける高齢者の特徴 ・身体機能、認知機能に応じたリハビリテーションにおける看護 14回目：さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護⑦ 受療状況に応じた高齢者への看護 ・外来を受診する高齢者の看護　・検査を受ける高齢者の看護 多様な場で生活する高齢者を支える看護 ・生活の場を変える高齢者への支援　・長期入院、入所高齢者の看護 15回目：まとめ・試験	※第９回、第１０回は、糖尿病やがんの患者の事例を用いて説明する。 ※第１１回～第１４回は、骨折事例で事例展開を行い学習する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」 メディカ出版	「生活機能から見た老年看護過程＋病態生活機能関連図」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	筆記試験　70% レポート　30%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
小児看護学	小児看護学概論	1	30	2	1	専任教員

科　目　目　標
小児期にある対象の特徴を理解し、保健問題の動向と保健対策の概要を知り、健全な成長発達、健康の保持増進・疾病予防など看護の役割と機能について学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：小児看護の対象 小児看護の目標 小児分野の保健・統計 2回目：小児看護の変遷 小児をめぐる法律と政策 母子保健行政 学校保健行政 3回目：小児の成長発達 成長・発達の原則、形態的成長 機能的成長、小児の栄養 4回目：成長発達の評価① 成長の評価、発達の評価 5回目：成長発達の評価② 成長の評価の実際 6回目：新生児の特徴と看護 形態的特徴、身体的特徴 各機能の発達 7回目：乳児の特徴と看護 形態的特徴、身体的特徴、 感覚、運動、知的機能 コミュニケーション 養育及び看護 8回目：幼児の特徴と看護① 基本的生活習慣獲得への援助 9回目：幼児の特徴と看護② 幼児の感覚・運動、知的機能 コミュニケーション 情緒・社会的機能 養育及び看護 10回目：学童の特徴と看護 形態的特徴、身体生理的特徴 感覚・運動、知的・情緒機能 11回目：学童の特徴と看護 社会的機能 学童を取り巻く諸環境 養育及び看護 12回目：思春期の特徴と看護 形態的特徴、身体生理的特徴 知的・情緒的・社会的機能 生活の特徴、養育及び看護 13回目：小児看護の倫理 子どもの権利 医療現場で起こりやすい問題と看護① 14回目：小児看護の倫理 医療現場で起こりやすい問題と看護② 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 小児看護学１「小児臨床看護総論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
小児看護学	小児病態学	1	30	2	1	院外講師 院内講師

科　目　目　標
小児疾患の病因、病態、症状の特徴及び検査・治療について理解し、小児看護実践での健康・疾病の観察力、判断力の根拠を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：染色体異常・体内環境により発症する先天異常 新生児（正常産の新生児・低出生体重児）の特徴と主な疾患 2回目：系統別疾患と検査・治療 代謝性疾患（先天性代謝異常、糖尿病）、内分泌疾患 3回目：系統別疾患と検査・治療 免疫・アレルギー疾患、リウマチ疾患 4回目：系統別疾患と検査・治療 感染症；ウイルス感染症 5回目：系統別疾患と検査・治療 感染症；細菌感染症、真菌感染症 6回目：系統別疾患と検査・治療 呼吸器疾患 7回目：系統別疾患と検査・治療 循環器疾患 8回目：系統別疾患と検査・治療 消化器疾患 9回目：系統別疾患と検査・治療 血液・造血器疾患、悪性新生物 10回目：系統別疾患と検査・治療 腎・泌尿器、神経疾患 11回目：系統別疾患と検査・治療 運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患 耳鼻咽喉科疾患 12回目：系統別疾患と検査・治療 精神疾患、発達障害 13回目：事故と外傷 外来・救急、災害時のトリアージ 主な誤飲物質と処置 熱傷の特徴と処置 溺水と処置 一次救命処置 14回目：子どもの虐待 小児薬物動態と薬用量の決定 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 小児看護学１「小児臨床看護総論」医学書院 ２「小児臨床看護各論」	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
小児看護学	小児臨床看護	1	30	2	2	院内講師 院外講師 専任教員

科　目　目　標
健康障害が子どもの成長・発達に与える影響、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解し、状態に応じた看護を展開できる技術を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 子どもにおける疾病の経過と看護 急性期、周手術期 2回目：入院中の子どもと家族の看護 外来に置ける子どもと家族の看護 3回目：在宅療養中の子どもと家族の看護 4回目：子どもにおける疾病の経過と看護 慢性期、終末期 障害のある子どもと家族の看護 先天性疾患、心身障害 5回目：症状を示す子どもの看護 発熱、脱水、下痢・嘔吐、痛み 呼吸困難、けいれん、意識障害 6回目：疾患をもつ子どもの看護 感染症、呼吸器疾患、循環器疾患 7回目：疾患をもつ子どもの看護 消化器疾患、運動器疾患 8回目：疾患をもつ子どもの看護 代謝性疾患、内分泌疾患 9回目：疾患をもつ子どもの看護 腎・泌尿器および生殖器疾患 神経疾患、精神疾患 10回目：疾患をもつ子どもの看護 免疫疾患・アレルギー疾患・ リウマチ性疾患、皮膚疾患、 感覚器疾患 11回目：疾患をもつ子どもの看護 血液・造血器疾患、悪性新生物 12回目：ハイリスク新生児の看護 集中治療における援助 親子・家族関係確立への援助 13回目：ハイリスク新生児の看護 疾患(新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群) 14回目：災害時の子どもと家族の看護 事故・外傷と看護 誤飲、溺水、熱傷 子どもの虐待と看護 15回目：まとめ・試験	疾患をもつ子どもの看護では、ネフローゼ症候群の児の看護について事例展開を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 小児看護学１「小児臨床看護総論」 小児看護学２「小児臨床看護各論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク等	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
小児看護学	小児臨床看護技術	1	15	2	2	専任教員

科　目　目　標
小児に特有な検査・処置・健康を障害された子どもと家族を看護するための基礎的知識と技術を習得する。また、対象の理解や看護に関する知識を統合し、判断力や問題解決力を鍛え、小児看護についての考え方を学ぶ

講　義　内　容	留意点等
1回目：アセスメントに必要な技術 コミュニケーション バイタルサインの測定；呼吸、脈拍、心音、血圧、体温 2回目：アセスメントに必要な技術 身体測定；身長、体重、頭囲、胸囲 3回目：清潔：清拭、臀部浴 4回目：経管栄養 排泄：便秘、排便困難時の援助；綿棒刺激、浣腸 5回目：検査・処置 与薬：経口与薬、点耳、点眼、点鼻、座薬の挿入、注射 6回目：検査・処置 輸液の管理、抑制、検体の採取；採尿、検便、採血、 骨髄穿刺、腰椎穿刺 7回目：呼吸症状の緩和 鼻腔・口腔・咽頭吸引、気管内吸引、酸素吸入 蘇生法：人工呼吸法、心肺蘇生法 8回目：試験（45分）	演示： 清拭、身体計測、 輸液管理 （シーネ固定法） 検査時の介助 （抑制、採尿、採血、腰椎穿刺） 演習： バイタルサイン測定 臀部浴

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 小児看護学１「小児臨床看護総論」医学書院	「写真でわかる小児看護技術」 インターメディカ

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験等

領域：専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
母性看護学	母性看護学概論	1	15	2	1	専任教員

科　目　目　標
母性看護における対象の特徴と動向を理解し、女性のライフサイクルにおける健康の保持・増進に必要な看護を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：母性看護の基盤となる概念 母子関係と家族発達　　セクシャリテイ　　ウェルネス ヘルスプロモーション　　リプロダクティブヘルス／ライツ エンパワメント　　セルフケア　プレコンセプションケア 2回目：母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母子保健統計からみた動向 1.出生　2.新生児、乳児、周産期死亡　3.妊産婦死亡 4.死産、流産、人工妊娠中絶 母性看護に関する組織と法律 母子保健施策からみた現状 1.産前・産後休業、育児休業　2.妊娠・出産包括支援 3.子ども・子育て支援事業 3回目：母性看護の対象理解 ヒトの発生・性的分化のメカニズム 母性、父性、親性 女性性の発達 1.セックス、ジェンダー 2.性の多様性（性同一性障害、性分化疾患、LGBT） 4回目：女性のライフステージ各期における看護 思春期・成熟期の健康問題と看護 1.第二次性徴　2.性周期（初経、月経） 3.性意識・性行動の発達 4.家族計画・受胎調節　5.月経異常、月経随伴症状 5回目：母性看護における倫理 人工妊娠中絶　　生殖補助医療　　出生前診断 6回目：母性看護に必要な看護技術 母性看護における看護過程 7回目：リプロダクティブヘルスケア 性感染症とその予防　　人工妊娠中絶と看護 性暴力を受けた女性に対する看護　　在留外国人の母子支援 8回目：試験（45分）	

	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 母性看護学１「母性看護学概論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域：専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
母性看護学	周産期看護Ⅰ （妊娠・分娩）	1	30	2	1	院内講師 院内講師 専任教員

科　目　目　標
妊娠・分娩における母体の生理的変化とその特性を理解し、必要な看護を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：正常な妊娠の経過① 妊娠期の定義　妊娠の成立 妊娠の経過と胎児の発育　母体の生理的変化 2回目：正常な妊娠の経過② 妊婦と家族の心理・社会的変化　妊娠による不快症状 3回目：妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント① 妊娠週数　妊婦の健康状態と胎児の発育 食事と栄養　排泄　活動と休息 4回目：妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント② 清潔　性生活 嗜好品（喫煙、アルコール、カフェイン） 妊婦健康診査　レオポルド触診法 子宮底、腹囲測定 5回目：妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント③ 間欠的胎児心拍数聴取 胎児心拍数陣痛図、ノンストレステスト<NST> 胎児の超音波断層法 6回目：妊婦と家族への看護① 食生活の教育　健康維持増進、セルフケアに関する教育 マイナートラブルへの対処 7回目：妊婦と家族への看護② 家族の再調整　出産の準備　育児の準備 8回目：正常な分娩の経過 分娩の定義　分娩の３要素　分娩の経過 9回目：産婦の健康のアセスメント 産婦の健康状態　分娩経過と進行　陣痛、産痛 産道　破水 10回目：胎児の健康のアセスメント 胎児の健康状態　連続的胎児心拍数モニタリング 11回目：産痛の緩和と分娩進行に対応した看護 12回目：産婦の基本的ニーズへの支援 13回目：産婦と家族の心理・社会的状態 産婦と家族の心理への看護 14回目：妊婦・産婦に必要な看護技術 腹囲・子宮底測定　レオポルド触診法　間欠的胎児心音聴取 胎児の超音波断層法の介助　内診の介助 15回目：まとめ・試験	演示： 胎盤計測 演習： 腹囲、子宮底測定 レオポルド触診法 間欠的胎児心音聴取 妊婦体験

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 母性看護学2「母性看護各論」医学書院	「写真でわかる母性看護技術」 インターメディカ

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域：専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
母性看護学	周産期看護Ⅱ （産褥・新生児）	1	30	2	2	専任教員

科　目　目　標
産褥および新生児の生理的変化とその特性を理解し、必要な看護を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：正常な産褥の経過 産褥期の定義　産褥期の身体的特徴　全身の変化 生殖器の変化　乳房の変化 2回目：褥婦の健康と生活のアセスメント 全身復古　子宮復古　分娩による損傷の状態 食事と栄養　排泄　活動と休息　清潔 3回目：母乳育児への支援 母乳育児の状況、栄養法 乳房トラブル 4回目：褥婦と家族への看護 産褥復古に関する支援　バースレビュー 褥婦の日常生活とセルフケア　食生活の教育 親子の愛着形成の支援 5回目：褥婦と家族の心理・社会的状態 家族の関係再構築の支援 育児技術獲得への支援　退院後の生活調整、産後のサポート 6回目：早期新生児の特徴と生理的変化 新生児期の定義と特徴 新生児の機能 神経系　運動器系　感覚器系　循環器系 生体の防御機構　呼吸器系　消化器系　代謝系 泌尿器系　体温調節 7回目：早期新生児の健康と発育のアセスメント① アプガースコア　成熟度の評価　外観 バイタルサイン　皮膚・皮膚色　頭部・顔面 体幹・四肢　外性器　神経学的所見 8回目：早期新生児の健康と発育のアセスメント② 生理的体重減少　生理的黄疸　哺乳状態　排尿・排便 新生マススクリーニング 9回目：早期新生児と家族への看護 気道の開通　保温　全身計測 全身の観察　清潔　哺乳 感染予防　事故防止　保育環境 10回目：事例展開 11回目：褥婦の看護の実際 12回目：育児技術①　新生児の諸計測　バイタルサイン測定 13回目：育児技術②　衣類交換　おむつ交換　清拭 14回目：育児技術③　沐浴 15回目：まとめ・試験	演示： 調乳 瓶哺乳 新生児の全身清拭・沐浴 保育器の取り扱い 演習： 産褥編 ・乳頭マッサージ ・産褥子宮触知 ・輪状マッサージ ・抱き方 ・排気のさせ方 新生児編 ・衣類交換　おむつ交換 ・沐浴 ・新生児の諸計測 ・バイタルサイン測定 事例展開 正常な産褥経過をたどる 褥婦および新生児の看護

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 母性看護学2「母性看護各論」医学書院	「写真でわかる母性看護技術」 インターメディカ

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習 グループワーク等	筆記試験

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
母性看護学	母性臨床看護	1	30	2	2	院内講師

科　目　目　標
妊娠・分娩・産褥期及び新生児の異常について理解し、必要な看護を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：出生前からのリプロダクティブヘルスケア 遺伝相談　出生前診断 不妊治療と看護 1.不妊とその原因　2.不妊検査　3.不妊治療 4.不妊夫婦の看護 2回目：妊娠期の健康問題① 不育症、流産、早産　感染症 3回目：妊娠期の健康問題② 常位胎盤早期剥離　前置胎盤　妊娠高血圧症候群 4回目：妊娠期の健康問題③ 妊娠糖尿病　妊娠貧血　妊娠悪阻 高年妊娠、若年妊娠　胎児機能不全 5回目：分娩期の健康問題① 前期破水　帝王切開術　分娩時異常出血 6回目：分娩期の健康問題② 胎児機能不全　陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛） 7回目：産褥期の健康問題 帝王切開術後　子宮復古不全　産褥熱 乳腺炎　産褥精神障害　尿路感染、排尿障害 8回目：妊娠期の健康問題に関する看護 9回目：分娩期の健康問題に関する看護 10～11回目：産褥期の健康問題に関する看護 12回目：死産、障害をもつ新生児を出産した親への看護 13回目：早期新生児の健康問題に対する看護① 先天異常の新生児　早産児、低出生体重児　新生児蘇生 14回目：早期新生児の健康問題に対する看護② 高ビリルビン血症　新生児ビタミンK欠乏症 低血糖症 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 母性看護学2「母性看護各論」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域 ： 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
精神看護学	精神看護学概論	1	15	2	1	院外講師

科　目　目　標
精神看護の必要性と意義、精神看護の対象、精神看護の機能と役割、精神看護を行ううえで基本的な態度を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：精神看護学の位置づけ 日本の精神科医療の現状とニーズ 精神保健医療福祉における看護の役割 2回目：ケアの人間関係① 信頼関係の基礎作り 患者-看護師関係の発展と終結 チームのダイナミクス 3回目：ケアの人間関係② プロセスレコードの活用 4回目：精神看護で大切な概念① レジリエンス エンパワメント 5回目：精神看護で大切な概念② アドボカシー リカバリ ストレングス 6回目：社会のなかの精神障害① 精神保健福祉の歴史(諸外国・日本) スティグマ 7回目：社会のなかの精神障害② 精神保健福祉法 1. 理念 2. 入院形態 3. 精神保健指定医 8回目:試験（45分）	演習： プロセスレコードの記載

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 精神看護学1「精神看護の基礎」 精神看護学2「精神看護の展開」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域 ： 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
精神看護学	精神保健	1	30	2	2	院内講師

科　目　目　標
あらゆるライフサイクルにある人を対象にした心の発達と心の動き及び危機的状況に関する基礎的知識を理解し、心の健康の保持・増進のためにつくられたシステムを学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：精神保健の考え方 精神の健康の定義 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防 リハビリテーションの概念・国際生活機能分類(ICF) 2回目：こころの機能と発達① 精神と情緒の発達 3回目：こころの機能と発達② 自我機能 4回目：こころの機能と発達③ 防衛機制 5回目：こころの機能と発達④ 精神力動 6回目：こころの機能と発達⑤ 転移感情 7回目：精神の健康とマネジメント① 身体疾患がある者の精神の健康 精神疾患がある者の身体の健康 8回目：精神の健康とマネジメント② 危機の概念・予防・対処・介入 9回目：精神の健康とマネジメント③ 危機の概念・予防・対処・介入 10回目：精神の健康とマネジメント④ 危機の概念・予防・対処・介入 11回目：精神の健康とマネジメント⑤ 危機の概念・予防・対処・介入 12回目：関係の中の人間 家族のストレスと健康状態 家族の対処力とソーシャルサポート 家族システムと教育的介入・患者-家族関係の調整 13回目：精神の健康とマネジメント リエゾン精神 ホリスティックケア 14回目：災害時地域精神保健医療活動 災害時の精神保健医療活動（ＤＰＡＴ） 災害時の精神保健に関する初期活動 災害時の精神障害者への治療継続 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 精神看護学1「精神看護の基礎」 精神看護学2「精神看護の展開」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域 ： 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
精神看護学	精神病態学	1	30	2	2	院外講師

科　目　目　標
精神看護を行ううえで必要となる代表的な疾患、症状、治療に関する知識を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：脳の仕組みと精神機能 脳の部位と精神機能 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 2回目：精神障害の診断と分類 3回目：主な疾患・障害とその症状① 統合失調症 4回目：主な疾患・障害とその症状② 気分(感情)障害 5回目：主な疾患・障害とその症状③ 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 生理的障害及び身体的要因に関連した行動障害 6回目：主な疾患・障害とその症状④ パーソナリティ障害 7回目：主な疾患・障害とその症状⑤ 器質性精神障害　　てんかん 8回目：主な疾患・障害とその症状⑥ 知的障害／精神発達遅滞　　心理的発達の障害 9回目：主な疾患・障害とその症状⑦ 小児期・青年期に発症する行動・情緒障害 性同一性障害 10回目：主な疾患・障害とその症状⑧ 精神作用物質使用による精神・行動の障害 11回目：主な治療① 薬物治療　　電気けいれん療法 12回目：主な治療② 個人(集団)精神療法　　心理社会的アプローチ 13回目：主な治療③ 認知行動療法　　生活技能訓練 14回目：精神障害者の権利擁護 当事者の自己決定の尊重 入院患者の基本的な処遇 精神医療審査会 隔離・身体拘束 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 精神看護学1「精神看護の基礎」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験

領域 ： 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
精神看護学	精神臨床看護	1	30	2	2	院外講師

科　目　目　標
精神看護を行ううえで必要な具体的援助方法を学ぶ。

講　義　内　容	留意点等
1回目：ケアの人間関係 2回目：入院治療の意味 3回目：安全をまもる 1.リスクマネジメントの考え方と方法　2.緊急事態に対処する 3.緊急事態とスタッフの支援 4回目:身体をケアする 1.精神科における身体のケア 2.精神科における身体を通した看護ケアの実際 3.精神科の治療に伴う身体のケア 4.身体合併症のアセスメントとケア 5.精神科における終末期ケア 5回目：主な精神疾患・障害の看護① 1. 統合失調症　2. 気分障害 6回目：主な精神疾患・障害の看護② 1. 神経症性障害、ストレス関連性障害及び身体表現性障害 2. 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 3. パーソナリティ障害 7回目：主な精神疾患・障害の看護③ 1. 器質性精神障害 2.てんかん 3.知的障害(精神遅滞) 4.心理的発達の障害 ８回目：主な疾患・障害とその看護④ 1. 小児期・青年期に発症する行動・情緒障害　2. 性同一性障害 3. 精神作用物質使用による精神・行動の障害 ９回目：回復を支援する 1.回復の意味　2.リカバリーのビジョン 3.治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 4.リカバリーを促す環境　5.リカバリーを促す方法としてのグループ 6.さまざまな回復のためのプログラム　7.リカバリープロセス 10回目：地域におけるケアと支援 1.地域における生活支援の方法 2.地域におけるケアの方法と実際（共同意思決定、共同創造コプロダクション）を含む 3.学校におけるメンタルヘルスと看護 4.職場におけるメンタルヘルスと精神看護 11回目：セルフケア理論を用いた事例の展開① 12回目：セルフケア理論を用いた事例の展開② 13回目：医療現場におけるメンタルヘルスと看護 1.身体疾患をもつ患者のメンタル　2.リエゾン精神看護とその活動 3.看護師のメンタルヘルス 14回目：災害時のメンタルヘルスと看護 15回目：まとめ・試験	

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 精神看護学1「精神看護の基礎」医学書院 精神看護学2「精神看護の展開」医学書院	

主とする授業形態	評　価　方　法
講義	筆記試験